

農林水産業関連

1 たんかんの次年度産に向けて樹勢回復を徹底

2月26～27日に徳之島町及び天城町において、たんかんの栽培講習会を行い、生産者・関係者計87人が参加した。

令和6年度産は着果が多い傾向であったことから、成木園では着果過多による落葉が一部見られた。そこで、成木では窒素系肥料の葉面散布を主体に、整枝・せん定や施肥，病害虫防除などについて講習した。また，幼木では定植方法や整枝・せん定，防風対策，病害虫防除などについて講習した。

農業普及課では令和7年度産に向けた適期管理について支援していく。

2 高栄養飼料作物生産でコスト低減を

3月24日～25日，飼料用トウモロコシの展示栽培を徳之島3町内の7か所で開始した。

子牛価格の低迷と飼料等資材の高騰下で，高栄養飼料作物生産の波及により生産コスト低減を図ることが目的である。今回は小規模農家を対象にほ場面積を5aとし，青刈りでの給与を計画している。

今後，展示ほ場を活用して現地検討会等を開催し，栽培普及を目指す。

3 自家育苗実証ほの切り花調査開始

天城町農業センターに設置しているトルコギキョウ自家育苗の実証ほの切り花調査を，3月11日から開始した。

徳之島では，令和3年度から種苗費のコスト低減を図るために自家育苗の実証を行っており，今年度は，は種作業の省力化及び桃色系統の適品種の選定に取り組んでいる。切り花調査では収穫日，草丈，輪数等を調査し，自家育苗の特性を評価する予定である。

農業普及課では，今後も自家育苗技術の情報提供等の支援していく。



4 ばれいしょ新品種「しまあかり」生産者・関係者からの評価は上々

3月6日に天城選果場及び目手久選果場で、ばれいしょ新品種「しまあかり」の現地検討会を開催し、生産者及び関係者計26人が参加した。

本年度は「しまあかり」と慣行品種「ニシュタカ」を比較する目的で、15人の生産者が展示ほを設置し、会では全15ほ場から採種した塊茎を並べて検討を行った。「しまあかり」は「ニシュタカ」よりやや小玉であったが、玉数が多く、参加者からは「ニシュタカ」と比べて遜色ないとの評価を受けた。

今後は、選果及び市場評価を行う計画である。



5 メロン青年農業者の勉強会活動が始動！

3月3日、天城町農業センターで、メロン青年組織の第1回勉強会が開催され、青年及び関係者計10人が参加した。

テーマは「農業経営」であり、自身の経営状況及び必要労働力の把握や作業記録の重要性について、意見交換を行いながら理解を深めた。

当地域のメロン農家は、経営基盤の弱い青年農業者が多く、基本技術の習得・向上が必要である。そのため、今後も月1回の頻度で勉強会の開催が計画されており、当課は支援を継続していく。

